



いけばな叢生会

代表者 田中 恵子

「平凡なものから 非凡なものへ」をテーマとして
自然破壊の進むなか、自然草木の生きる姿を目にすることも
少なくなった現在です。

私たちは、さまざまな環境に耐えて生きる、草木のドラマに学び
を求めています。

それらの草木の生き様に、人間の生き方を重ねて、四季折々の
季節を感じとりながら、生け花に取り組んでいます。



小原流

代表者 吉岡 佳秋

小原流は、明治中期に小原雲心が「盛花」を考案し近代いけ
ばなの道を開いたことに始まります。

創流以来小原流は、二つのいけばなを基本テーマにしてきました。

一つは、花の季節や出生を生かして風景を表現するいけばな。
もう一つは、花のもつ色と形を組み合わせる美しさを追求するい
けばなです。

小原流は伝統を生かしつつ、現代の生活空間にもマッチした
表現を目指しています。



古流松藤会

代表者 田中 理慶

＝いけばなは、人と花との語り合い＝

古流のいけばなは、江戸時代に誕生し、松藤会は、本部を東京
文京区に家元池田理英のもと、国内外60の支部を組織し、全国
的に活動しています。「生花」は天地人で構成され、調和のとれ
た姿の美しい伝承花と、「現代華」は現代生活のインテリアデザ
インという発想から生まれ、創造性に主眼をおいて形づくる、自由
形式の両方を学んでいます。美しい花をみつけたら、いけばなに
してみませんか!!



新池坊

代表者 檜崎 佳泉

新池坊は格式を重んじた格花(立華、生花)と自由花(盛花)
いけばな全般の指導を特色とし「流は一人のものにらず会員皆
で研究を重ねよい作品を伝承していく」との流是のもと、明治43年
一ノ瀬梅萼によって創流。昭和7年に二代家元梅蕾が初代の志
を受け継ぎ、表現様式を究明し造形芸術に共通する構成原理、
基本形式を確立する。

平成5年三代家元梅岳が継承し、伝統を守りながら現代様式に
合わせた作品を確立し現在に至る。



成和御流

代表者 大嶋 美津圃

安土桃山時代(450年前)に後陽成帝により創流が許された
秘法としての花を伝承し、

“言外の趣味が漂う心和む作品”を追求します。

格花である生花を中心に、季節の移ろいや景色の風情、彩りの
美しさを、独自スタイルである写景生花や、盛花、投げ入れ、自由花に
表現します。

またオリジナルのフラワーインテリアを、インベリアルフラワーア
レンジメントとして、素敵なお花のある暮らしをご提案いたします。



専心池坊

代表者 後藤 露蝶

専心池坊のいけばなは、古典花と現代花に大きく分かれています。
古典花には立華と生花があり、これらに現代性を加えたものに新生花
があります。立華はいけばなの基本とも言えるすぐれた様式であり、立
華を簡略化した生花は、いけばなの粋として広く愛好されるものです。

現代花は表現方法の違いによって、自然花と自由花の二つに分けら
れます。自然花は、草木の出生を生かして季節感を表現します。自由花は、
造形という新たな観点から研究されたもので、草木の出生にとらわれず、
いける人の個性を自由に表現します。また、最近では、洋花を中心とし
た色彩豊かなフラワーアレンジメントにも力を入れています。



大和池坊

代表者 執行 佳華

格花は、大和池坊独特の線の美しさを基本に据え、柳を使った作品
は大和池坊の伝統花とされ、バランスと力強さを表現しています。

また自由花は、植物の個性を生かし自由な発想で創作するものです。
日常生活にフィットする家庭いけばなから芸術性豊かな現代花の
創作を研究し、いけばな活動を続けています。

心豊かな日々の暮らしに「花一輪」の精神を大切にしながら、これ
からも更に工夫し研鑽して参ります。



いけばな那能津会

代表者 小島 洋芳

いけばな那能津会は、昭和52年現代華を志す華道家の有志
により、福岡で設立されました。

私どもが目指す現代華は、自然の姿をそのまま再現するのでは
なく、花や木や様々な素材を用いながら、新たな美を創造し、自らの
思いや感動を表現するいけばなです。

自由な発想と感性で、どのような空間にも調和するよう心がけて
おります。



花芸安達流

代表者 野田 未暁

私共が目指す作風を「花芸」と呼びます。

「花」は日本伝統芸道の花道から、「芸」は西欧の芸術・美意
識に学び、その両者の長所を生かした作品にと、願ひ込めます。

四季の変化と多くの植物に恵まれた日本人として、植物の生命・
花の心に想いを寄せ、現代生活の中に共にある花の道を追い
求めています。



古流大観流

代表者 上田 江雲

古流大観流現代花は、現代の生活に合わせた、
四季折々の花材により、暮らしの中に季節感と
安らぎを与えることを大切にしています。



真生流

代表者 中村 淳華

真生流は、昭和2年、流祖 山根翠堂によって創流されました。

従来の型ではなく「自由花こそが本当のいけばなであると同時に
芸術だ」と論じ、いけばな芸術論を展開しました。

季節感のある 家庭いけばな

現代空間にマッチした モダンな花

風情のある 山野草の一輪押し

花ものを美しくアレンジした ナチュラルフラワー

いずれも自然の美しさを生かした幅広い作風を特色としています。



千家古儀

代表者 白石 竹泉

千利休が花道の上に戎定恵の道を説き、名付けて千家古儀とされた。
九代目鉦雲斎真野路童は、黒田藩士皇居勤番の時、八代目学古
斎野田岳翁(京都の医者)より家元を継承し博多に帰ったのは、天明
の初期である。

これより筑前郷士の武家の生け花として、博多の豪商の中にも流行
した花である当千家古儀は、以上の如く伝統の中に生きる生花である。
茶花からでているだけに、一輪の花の尊さを歌い上げ、一枝、一葉、
一花の生きると云う心を感じていけるのが、当流千家古儀の花である。



草月流

代表者 片山 健

いけばなは、いけた人の心の姿を映すもの。だから、「花は、私になる。」
のです。

いつでも、どこでも、誰にでも。そして、どんな素材でもいけることが
できる草月のいけばな。これまでも、そしてこれからも、今を見つめながら、
植物のいのちを、私たち一人ひとりの感性で、より美しく、どこまでも
自由に花開かせてまいります。

草月流は、2017年に創流90周年を迎えます。



龍生派

代表者 西見 梅月

明治18年初代吉村華芸によって創流され、立華、生花、自由花と
あり、真に今日性あるいけばなの創造を目指す自由花を中心の軸として
活動をしています。

特に3代目家元吉村華泉の提唱する「植物の貌」

・植物を見る視覚・視点を交える

・花材の新たな取り合わせ

・植物に積極的に手を加える

・新たな貌を見いだすための状況設定をする

現在4代目家元吉村華洲と共に追求しながら、会員一同植物の美を
求め、日々研鑽をかかえています。